

お披露目の写真

稲宮 健一

研究室の院生だった頃、台湾の留學生の楊君が結婚するため、国に帰ると言ってきた。自分を紹介する時、楊貴妃の楊ですと自己紹介する楊君は我々より少し年上で、髪が少し薄くなっていった。暫くすると、台湾から戻って来て、新郎新婦の記念写真を皆の前に見せて回った。私の番になって、写真を手に取った。見た瞬間、内心驚いた。そこに写っていたのは男優女優の写真をベースに楊君の特徴に合わせて修正した写真だった。どんな誉め言葉を言ったか覚えてないが、堂々と美化させた写真を回覧する中国人と我々の意識の差を感じた。その後、楊君は大陸との交易で財を成した。

お見合い結婚が盛なりし頃、上手なお見合い写真を撮ってくれるので有名な写真館があった。この写真はあくまでも本人の目鼻を美映えよく修正する、その微妙な修正技術で多くの利用客を呼んだ。写真館の誇りに台湾流の修正などあり得ない。

前回投稿した、柯隆著「ネオ・チャイナリスク」にこのような一節があった。米中貿易戦争を仕掛けたトランプ大統領に対して、習近平主席は「我が国の文化と習慣はやられたら必ずやり返す」言い、反論する宣伝映画を流し続けた。これと対照的なのが、キッシンジャー博士への対応で、「友好人士」として今でも訪中すると厚い処遇をする。中国人はたとえ嘘であっても、ほめてくれる相手に倍返しをしようとする。国の外交政策は敵を友に変えていくのが常道だが、この方法では中国外交は敵をますます敵にしてしまう。と書かれている。

これを読んで、学生時代にあった、楊君の写真ことを思い出した。あの写真を見た時、素晴らしい祝宴を持ち、三國一の花嫁をもらったとジェスチャーを交えて祝福しなければならなかったのだと。でもあの時そんな社交術は心得ていなかった。これは個人の経験であるが、国と国のお付き合いでは、この様なことを常識として水面下で心得てないといけないようだ。お隣とは言え、難しいお方が住まわれているようだ。